



Think Automation and beyond...

2019年3月第2四半期 テレフォンカンファレンス資料

2018年10月31日

IDEC株式会社

証券コード:6652

1. 2019年3月期 第2四半期決算説明

2019年3月期 通期業績予想

執行役員 経営管理担当

西山 嘉彦

2. 2019年3月期 第2四半期決算レビュー

買収案件の取組み状況

常務執行役員 セールス・マーケティング担当

Arnaud Mondy

2019年3月期 第2四半期(上期)
(2018年4月1日～2018年9月30日)
決算ご説明資料

上期の売上高・営業利益は、前期に続き2期連続で過去最高を更新

売上

■ 売上高 318億円 (前年同期比 + 8.7%)

- 国内外で主力のHMIソリューション製品や、安全・防爆ソリューション製品、オートメーションソリューション製品などが伸長
 - 前期グループ化したAPEMに加え、当期グループ化したウェルキャットや東京センサなどの業績も堅調に推移
- (為替・ウェルキャット・東京センサ・EU再編の影響を除いた場合は、前年同期比+5.0%)

利益

■ 営業利益 32億円 (前年同期比 + 6.4%)

■ 経常利益 34億円 (前年同期比 △ 5.3%)

■ 四半期純利益※ 23億円 (前年同期比 △21.1%)

- 収益性の高い制御用操作スイッチや安全・防爆ソリューション製品など、主力製品の売上が増加したことなどから、営業利益は増加
- 為替差損益の影響などから経常利益は減少
- 国内外における事業再編による固定資産売却益を計上したものの、事業整理損の計上により、四半期純利益は減少

※ 親会社株主に帰属する四半期純利益

連結業績概要<連結損益計算書>-1



2019年3月期 上期 業績概要

(単位:百万円)	19.3月期 上期			18.3月期 上期	
	実績	対売上比	前年同期比	実績	対売上比
売上高	31,852	100.0%	+ 8.7%	29,298	100.0%
売上総利益	13,892	43.6%	+ 8.3%	12,831	43.8%
販売費及び一般管理費	10,598	33.3%	+ 8.9%	9,736	33.2%
営業利益	3,293	10.3%	+ 6.4%	3,094	10.6%
経常利益	3,425	10.8%	△ 5.3%	3,615	12.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,397	7.5%	△21.1%	3,040	10.4%
1株当たり四半期純利益 (潜在株式調整前)	72.96円	—	△27.42円	100.38円	—
USDレート (円)	110.26円		△0.79円	111.05円	—
EURレート (円)	129.78円		+3.47円	126.31円	—

連結業績概要<連結損益計算書>-2



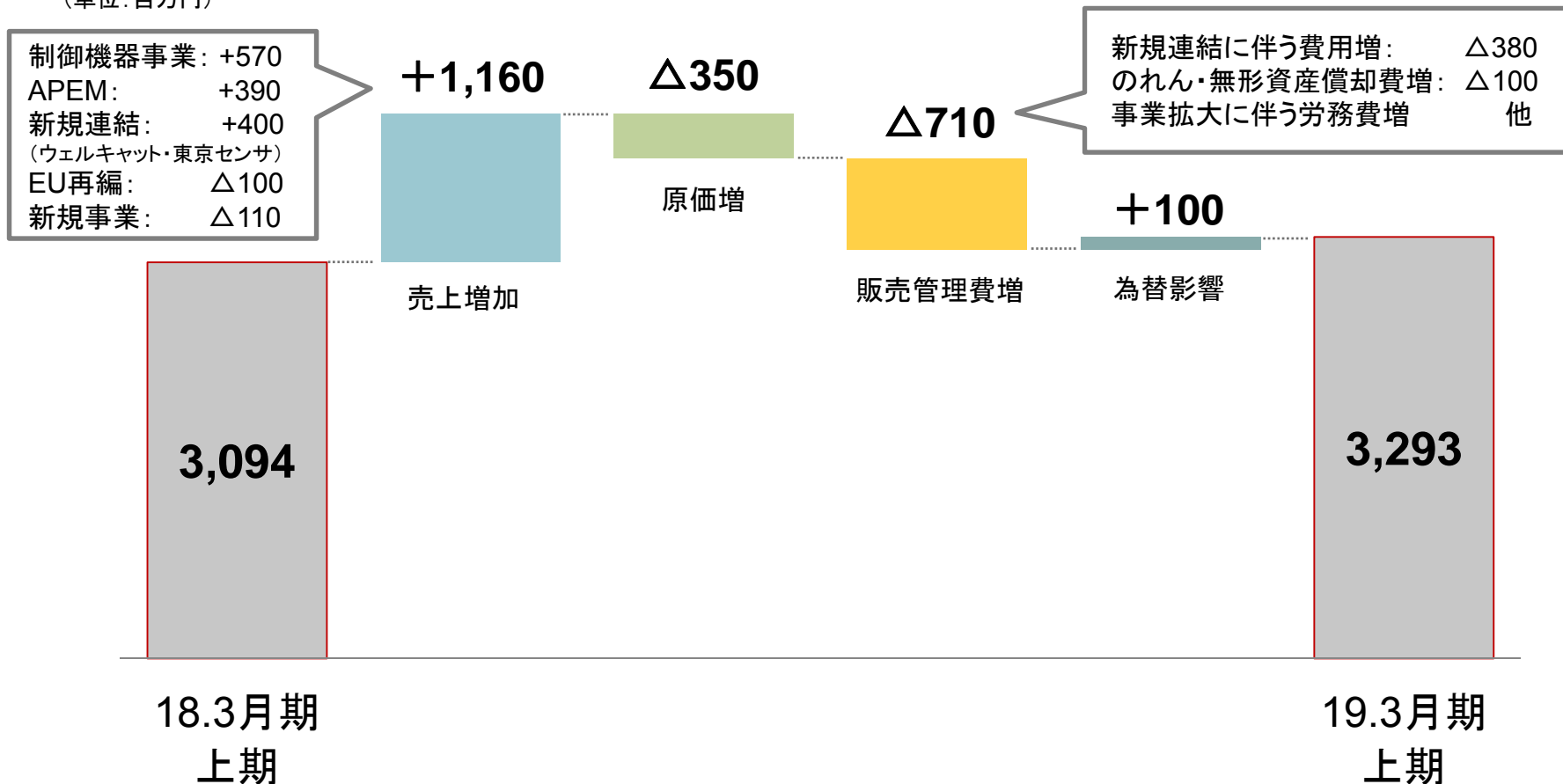
四半期別 業績概要

(単位:百万円)	18.3月期						19.3月期				
	2Q(7月~9月)		3Q(10月~12月)		4Q(1月~3月)		1Q(4月~6月)		2Q(7月~9月)		
	実績	対売上比	実績	対売上比	実績	対売上比	実績	対売上比	実績	対売上比	前年同期比
売上高	14,954	100.0%	15,282	100.0%	15,202	100.0%	15,493	100.0%	16,358	100.0%	+ 9.4%
売上総利益	6,523	43.6%	6,655	43.5%	6,535	43.0%	6,882	44.4%	7,009	42.9%	+ 7.5%
販売費及び一般管理費	4,883	32.7%	4,982	32.6%	5,190	34.1%	5,307	34.3%	5,290	32.3%	+ 8.3%
営業利益	1,640	11.0%	1,673	10.9%	1,344	8.8%	1,575	10.2%	1,718	10.5%	+ 4.8%
経常利益	1,483	9.9%	1,578	10.3%	1,290	8.5%	1,604	10.4%	1,820	11.1%	+ 22.7%
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,218	8.2%	1,270	8.3%	984	6.5%	1,443	9.3%	954	5.8%	△21.7%
1株当たり 四半期純利益 (潜在株式調整前)	40.24円		41.05円		29.97円		43.95円		29.02円		

連結営業損益変動要因

原材料価格や加工費の高騰などによる原価の増加に加え、ウェルキャットと東京センサ買収に伴う販売管理費増加や、事業拡大に伴う労務費増加などの影響があったものの、主力製品群の売上増加などにより、営業利益は前期比で約2億円増加

(単位:百万円)



連結特別損益の状況

国内外の事業再編に伴う固定資産売却益の計上により特別利益を5.4億円計上した一方、主にパワーコンディショナ事業再編など構造改革のための事業整理損を計上し、特別損失を5.6億円計上

(単位: 百万円)		19.3月期 上期	18.3月期 上期
経常利益		3,425	3,615
特別利益	固定資産売却益	540	6
	投資有価証券売却益	—	504
	その他	1	1
	小計	541	512
特別損失	事業整理損	553	—
	その他	6	10
	小計	560	10
税金等調整前四半期純利益		3,406	4,117
四半期純利益		2,397	3,040

連結業績概要 <連結貸借対照表>



2019年3月期 上期 連結貸借対照表概要

資産のポイント

- のれんなど無形固定資産が償却により減少したものの、現金及び預金やたな卸資産が増加したことなどにより、総資産は前期末比約8億円増加

負債のポイント

- 未払法人税等が減少したものの、前受金や未払費用、その他の固定負債などが増加したことなどにより、負債は前期末比約9億円増加

純資産のポイント

- 利益剰余金が増加した一方、為替換算調整勘定が減少したことなどにより、純資産は前期末比約1億円減少

(単位:百万円)

科目	19.3月期 (9月末)	18.3月期 (前会計年度末)	前会計年度末比 増減
流動資産	41,493	39,873	+1,620
固定資産	50,885	51,657	△ 771
流動負債	27,384	26,953	+ 431
固定負債	19,784	19,284	+ 499
純資産	45,210	45,292	△ 82
総資産	92,379	91,530	+ 848
自己資本比率	48.9%	49.2%	

連結業績概要 <連結CF計算書>



2019年3月期 上期 連結キャッシュ・フロー計算書概要

営業活動によるCF

- 法人税等を納付した一方、減価償却費の増加や四半期純利益の計上などにより、約39億円となった

投資活動によるCF

- 主に、国内外の事業所再編による固定資産の売却や取得などにより、約△10億円となった

財務活動によるCF

- 主に、配当金の支払いや、借入金の返済などにより、約△13億円となった

(単位:百万円)

	19.3月期 上期	18.3月期 上期	前年同期比増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,854	1,644	+2,210
投資活動によるキャッシュ・フロー	△979	△236	△ 743
フリー・キャッシュ・フロー(FCF)	2,874	1,408	+1,466
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,256	△2,672	+1,415
現金及び現金同等物の期末残高	14,023	10,974	+3,049
設備投資額	1,751	909	+ 842
減価償却費	1,287	1,149	+ 137

2019年3月期 連結業績予想
(2018年4月1日～2019年3月31日)

2019年3月期 連結業績予想



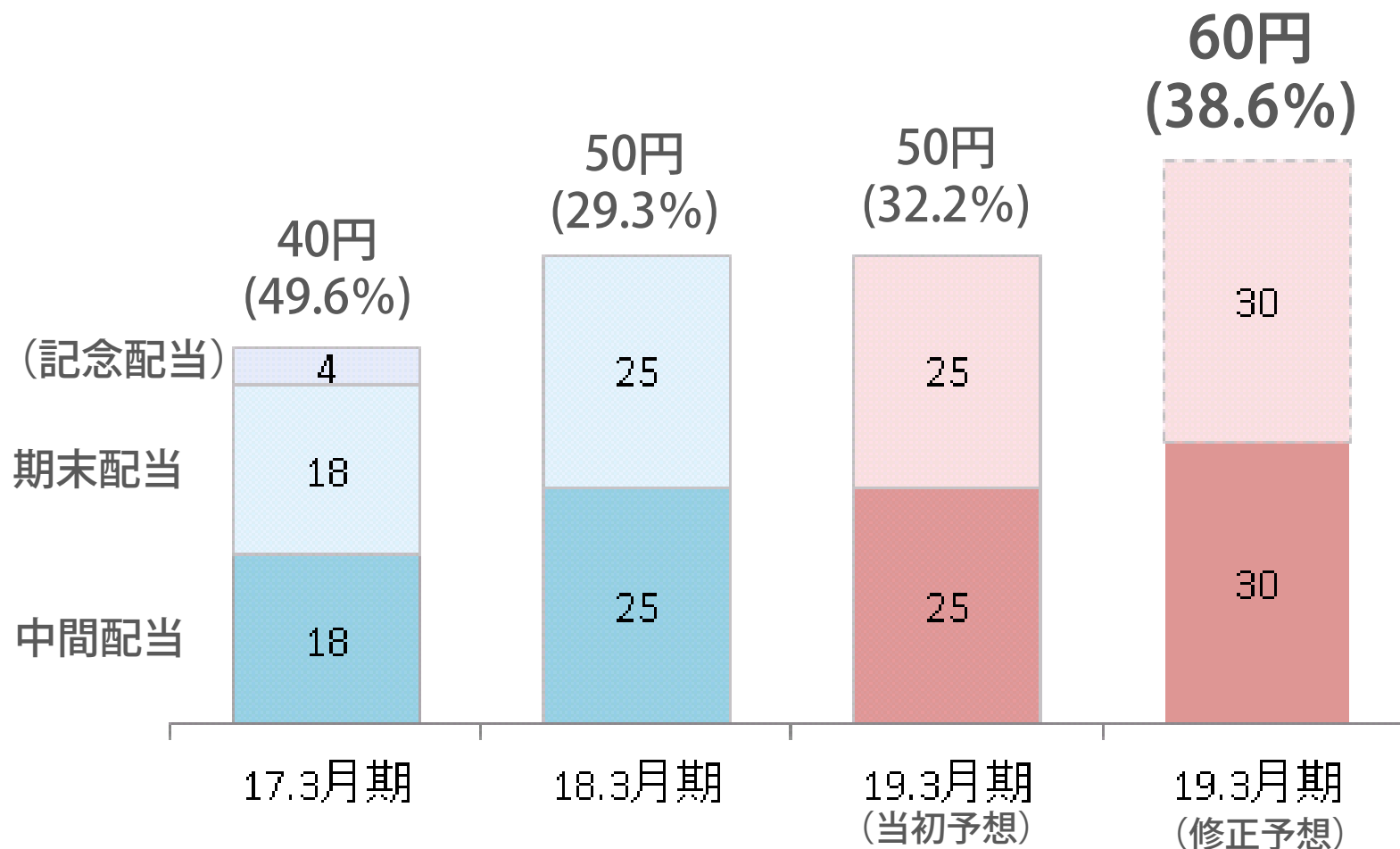
通期予想は変更しておりません

(単位:百万円)	19.3月期 予想 (日本基準)			18.3月期 (日本基準)		19.3月期 予想 (IFRS概算)	
	予想	対売上比	前期比	実績	対売上比	予想	対売上比
売上高	62,500	100.0%	+ 4.5%	59,783	100.0%	62,500	100.0%
売上総利益	28,000	44.8%	+ 7.6%	26,022	43.5%	28,000	44.8%
販売費及び一般管理費	20,800	33.3%	+ 4.5%	19,909	33.3%	20,000	32.0%
営業利益	7,200	11.5%	+17.8%	6,112	10.2%	8,000	12.8%
経常利益	7,100	11.4%	+ 9.5%	6,484	10.8%	7,900	12.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,100	8.2%	△3.7%	5,296	8.9%	5,900	9.4%
EBITDA	10,600	17.0%	+12.0%	9,463	15.8%	10,600	17.0%
USDレート (円)	110.00円			110.86円		—	
EURレート (円)	130.00円			129.66円		—	

2019年3月期 配当予想



株主さまへの還元のため、中間配当30円、期末配当30円とし、1株当たり年間配当金**60円**（当初予想50円）、配当性向**38.6%**（当初予想32.2%）を予想



2019年3月期 第2四半期(上期) レビュー

- 経済は期待通り成長したが、不安リスクが顕在化し経済全体に影響を与えた
 - IMFによるGDP 成長予測は0.2 ポイントダウンして3.7%
 - 米中貿易摩擦の影響など不透明感が増しているものの、市場は引き続き好調に推移
 - 米国における関税増加の影響は軽微
 - 中国の製造業PMIは9月50.8(国家統計局)となり、若干のスローダウン
- 市場は下期も引き続き堅調な成長
 - 工作機械の上期受注は、前年同期比+11%と引き続き好調に推移
 - 上期に、一部の在庫調整が既に実施済み
 - 日本電気制御機器工業会(NECA)の出荷統計の上期実績は前年同期比△4%、国内向けは+2%となり、IDECの売上は市場成長を上回る

成長戦略

売上高318億円（前年同期比+8.7%）

- ウェルキャット・東京センサ買収による売上増 +7.4億円
- APEM事業の拡大 +10億円
- オーガニックグロース（為替・ウェルキャット・東京センサ・EU再編の影響を除く） +5%
- 海外売上高の伸長率 +12%

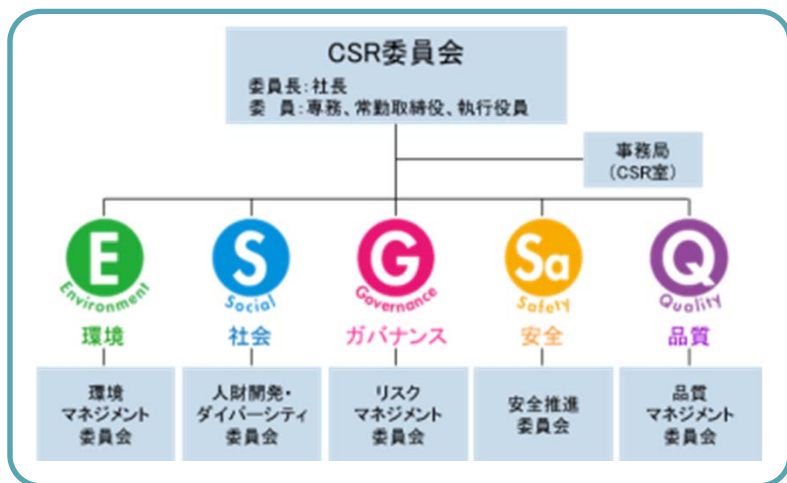
収益性の向上

営業利益率10.3%（前年同期比△0.3ポイント）

- 制御機器事業の営業利益率 14.0%（前年同期比+0.2ポイント）
- 品目削減（※2019年3月期中に実施予定） △10%（△15,000品目）
- 製品価格および特別価格の見直し、製品リニューアルの実施

CSR活動の推進

- CSR委員会、専門委員会(ESG+Sa+Q)の設立、開催
- サプライヤー様向けCSR調達説明会の実施



- 社長を委員長とするCSR委員会を2018年4月に設立し、5月、10月に委員会を開催
- ESGに、IDECの強みである「安全(Sa)」と「品質(Q)」を加えた「ESG+Sa+Q」の5分野で執行役員を委員長とする専門委員会し、活動を牽引
- CSRガイドブックを発行
- サプライチェーン全体で社会的責任の遂行に取り組むため、サプライヤー様向けにCSR調達説明会を開催
- 「CSR調達方針」を説明するとともに、「CSR調達ガイドライン」を提示

地域別売上状況



地域別売上状況

単位:百万円
(構成比)

	19.3月期 上期	18.3月期 上期	前年同期比
日本	14,376 (45.1%)	13,396 (45.7%)	+ 7.3%
海外	17,476 (54.9%)	15,901 (54.3%)	+ 9.9%
米州	4,912 (15.4%)	4,733 (16.2%)	+ 3.8%
EMEA (欧州、中東、アフリカ)	5,713 (17.9%)	4,946 (16.9%)	+15.5%
アジア・ パシフィック	6,850 (21.5%)	6,221 (21.2%)	+10.1%
合計	31,852 (100.0%)	29,298 (100.0%)	+ 8.7%

日本 前年同期比 **+ 7.3%**

(※既存制御機器事業は、前年同期比+5.2%)

- 環境関連事業の売上が減少したものの、HMIソリューション製品や安全・防爆ソリューション製品などの売上が堅調に推移
- 新たにグループ会社に加わった、ウェルキャットや東京センサの売上が寄与

海外 前年同期比 **+ 9.9%**

(※EU再編の影響がない場合は、+11.8%)

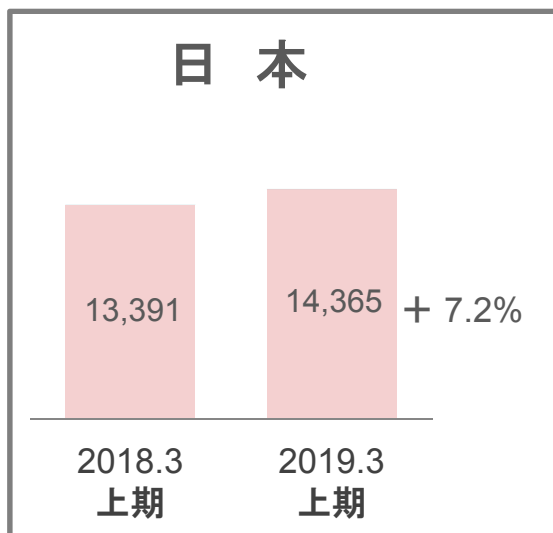
- 各地域でHMIソリューション製品、安全関連機器の売上が伸長
- 欧州を中心にAPEMの売上が伸長し、アジア・パシフィックでは、主に中国で制御用リレーなどの販売が好調に推移

地域別売上状況

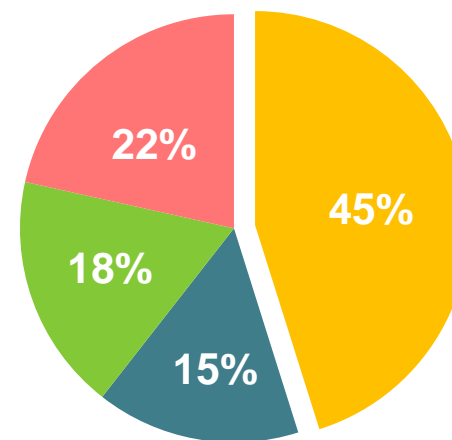
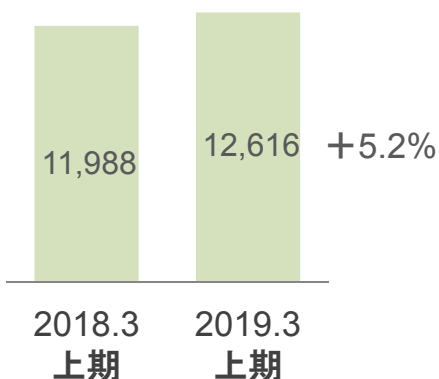


■ IDEC売上 ■ APEM売上 (単位:百万円)

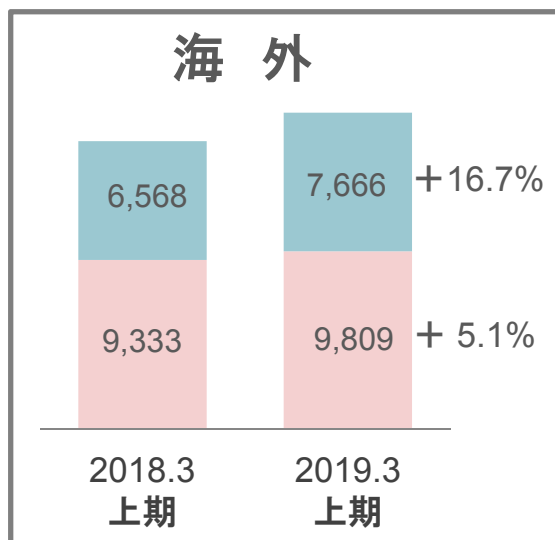
【売上高比率】



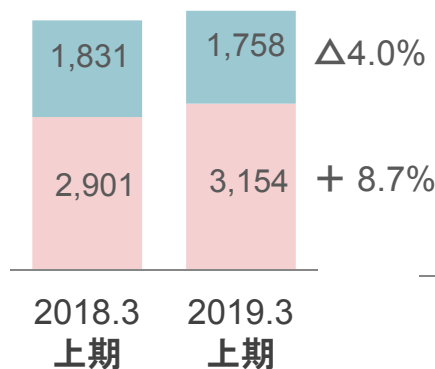
※日本における
既存制御機器事業の売上



■ 日本 ■ 米州 ■ EMEA ■ アジア・パシフィック

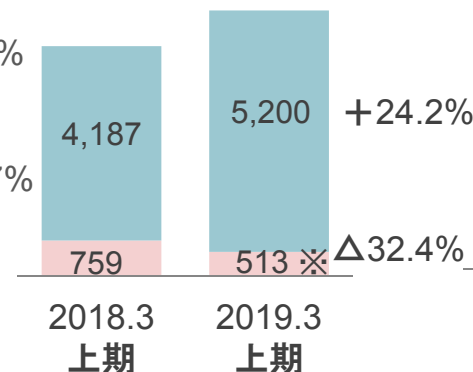


米州

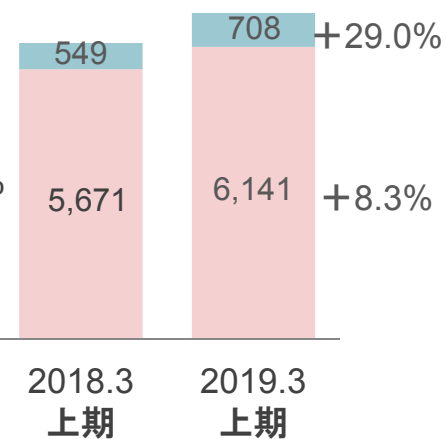


EMEA

※EU再編の影響により、当期の
IDEC売上は3カ月のみ計上



アジア・パシフィック



製品別売上状況



製品別売上状況

単位:百万円
(構成比)

	19.3月期 上期	18.3月期 上期	前年同期比
HMIソリューション	15,457 (48.5%)	14,089 (48.1%)	+ 9.7%
盤内機器ソリューション	5,930 (18.6%)	5,598 (19.1%)	+ 5.9%
オートメーションソリューション	4,296 (13.5%)	3,582 (12.2%)	+ 19.9%
安全・防爆ソリューション	3,466 (10.9%)	3,112 (10.6%)	+ 11.4%
システム	1,678 (5.3%)	1,508 (5.1%)	+ 11.3%
その他	1,022 (3.2%)	1,407 (4.8%)	△27.4%
合計	31,852 (100.0%)	29,298 (100.0%)	+ 8.7%

HMIソリューション

APEM製品が伸長し、制御用操作スイッチも好調に推移

盤内機器ソリューション

制御用リレーなどの売上が伸長

オートメーションソリューション

ウェルキャットの自動認識機器の売上が2017年10月より寄与したことに加え、プログラマブルコントローラの売上也堅調に推移

安全・防爆ソリューション

東京センサの売上が2018年7月より寄与したことに加え、安全関連機器、防爆関連機器も伸長

システム

半導体・液晶製造装置用の制御盤などの売上が堅調に推移

その他

環境関連事業の売上が減少

HMIソリューション

- フラッシュシールドスイッチ売上拡大
 - ロボット・工作機械などバーティカル顧客における採用拡大
 - APEM既存顧客での引合拡大及び欧州大手CNCメーカーへの採用開始



- 非常停止スイッチ売上拡大
 - 安全意識の高まりから使用範囲がさらに拡大
 - 欧州大手フォークリフトメーカーへの採用開始

安全・防爆ソリューション

- 業界ごとの安全ソリューションを協働で構築
- 大手自動車メーカー
 - 安全規格のみならず、更に安心感を含んだ「Safety2.0」思想の衝突防止システムの推進
- 大手電子・電機デバイスメーカー
 - 安全規格を有した協働ロボットに、さらなる安心技術を用いた設備システムの構築



盤内機器ソリューション

- 殆どの製品で堅調な成長、リレーは10%以上伸長
- EUエリアでの新規代理店契約に関連する売上拡大（下期での効果期待）
- 中国・アジア向けミドルレンジリレーの発売開始による収益性向上（下期での効果期待）



オートメーションソリューション

- プログラマブルコントローラの最新モデルが好評、米国・日本・中国で20-30%増
- 日本でCompact IoTをキーに新規顧客を開拓
- イオナイザ、ウェルキャット製品の発売により、新規顧客開拓
- 下期、表示器のラインナップ拡充によりさらなる拡大



買収案件の取組み状況

1 全地域において市場の伸びを上回る堅調な推移

- 主要3製品(スイッチ、表示機器、ジョイスティック)カテゴリーにて2桁成長

2 生産工場の統合と再構築

- 英国新工場 (Winchester) を稼働
- IDECとの共同開発によるデンマークの基盤スイッチの新ライン設置 (下期稼働)

3 欧州におけるIDEC製品の販売増 (前年同期比+30%強)

- HMI・安全関連機器を中心に製品戦略を立案
- APEMの全代理店においてIDECのHMI製品を販売
- IDECスイッチの販売促進に特化した新たなウェブサイトの立ち上げ

4 日本市場でのAPEM製品の販売

- APEMブランドの認知度アップによる引合拡大
- 保有引合:約3億円/年
- 各地域における主要代理店での拡販体制の整備

1 労働力不足解消のための自動認識技術と新技術の取込み

- バーコード、2次元シンボル、RF-ID技術活用をIDECグループへ
- AI、Cloud等の新しい取り組みの推進

2 Non-FA(医療、リテール)の自動化

- 機器販売だけでなく、業務の課題解決までをワンストップ・ソリューションで提案

※医療機器製造業としてサプライビジネス立上げ等

3 FA市場へのRF-ID 無線応用製品

- IDEC・ウェルキャット 開発チームによる無線応用製品の開発

※ウェアラブルスイッチ、再使用品のRFタグ等

4 IDECグループのソリューションプロバイダー

- ハードウェア・ソフトウェアの一体開発・サポート

※製造部品にID ⇒ IDで在庫管理 ⇒ IDでピックアップ配送

⇒ IDで販売管理 ⇒ 販売後、苦情製品はIDで特定

1 IDECグループとして売上増 約120%

- 特に物流・搬送向け販売が増加

2 IDECの安全・安心 ビジネスの拡大

- 11月から東京センサの製品をIDECから正式発売

3 東京センサとIDECによる協働の取り組み

- 大手メーカー(自動車及電機)における生産設備の安全システムの開発推進
- 安全規格の取得により工作機械向けソリューションを提供
- 世界初 防爆エリアで使用できる製品の開発

参考資料

地域別受注状況



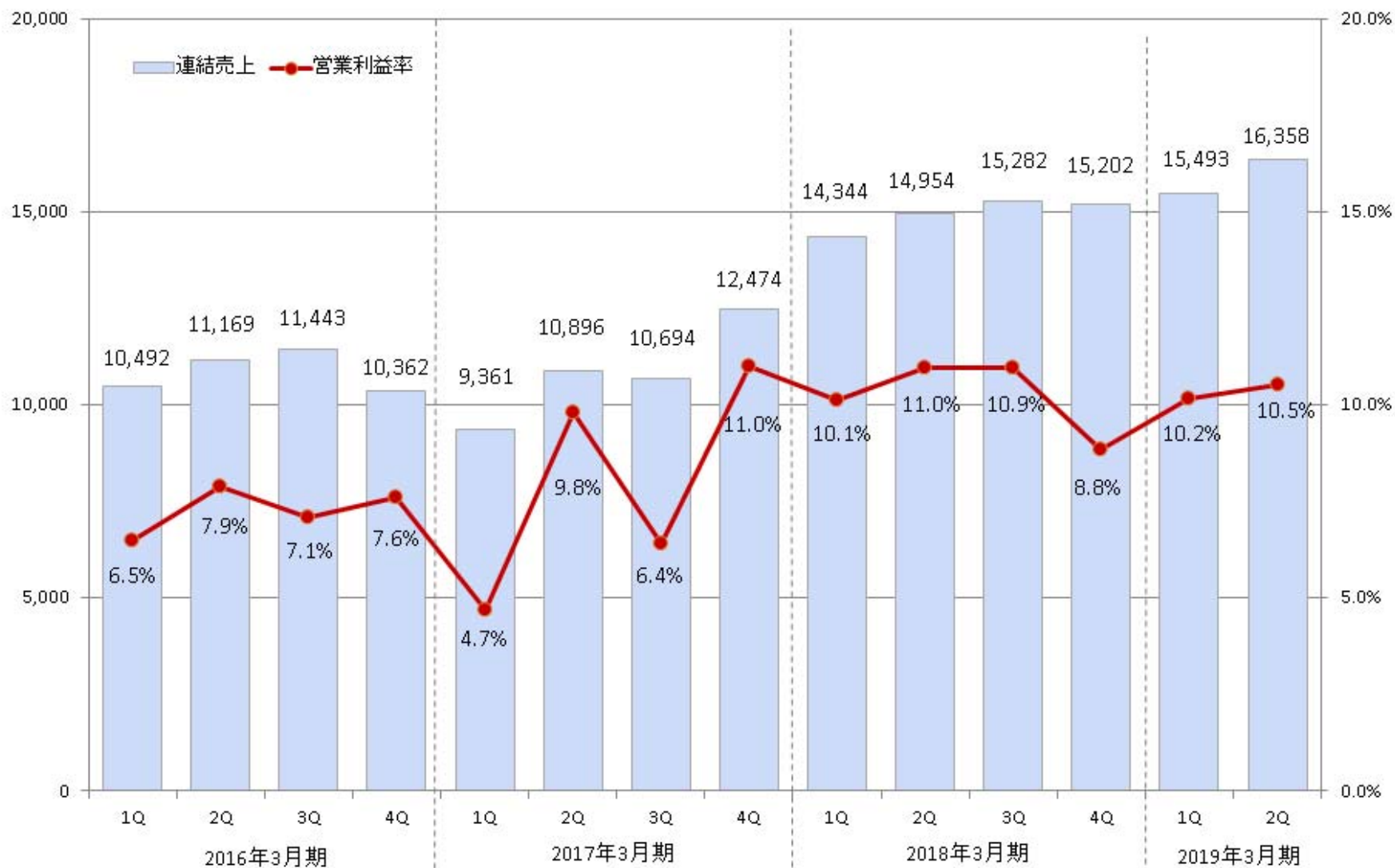
- **日本**: 前期は環境関連事業として約28億円の受注が入っていたことから、前年同期比で減少しているが、その影響を除くと足元の受注高も含めて増加傾向
- **米州・EMEA**: 引き続き好調な受注状況が継続
- **アジア・パシフィック**: 受注は引き続き好調に推移しているものの、伸び率は鈍化傾向

単位: 百万円

	19.3月期 上期				18.3月期 上期	
	受注高	前年同期比	受注残高	前年同期比	受注高	受注残高
日本	15,370	93.0%	5,926	94.2%	16,529	6,289
米州	5,298	109.7%	1,493	125.5%	4,828	1,190
EMEA (欧州、中東、アフリカ)	6,537	124.7%	3,759	144.9%	5,240	2,595
アジア・ パシフィック	4,478	107.4%	2,215	84.4%	4,169	2,624
合計	31,685	103.0%	13,395	105.5%	30,767	12,698

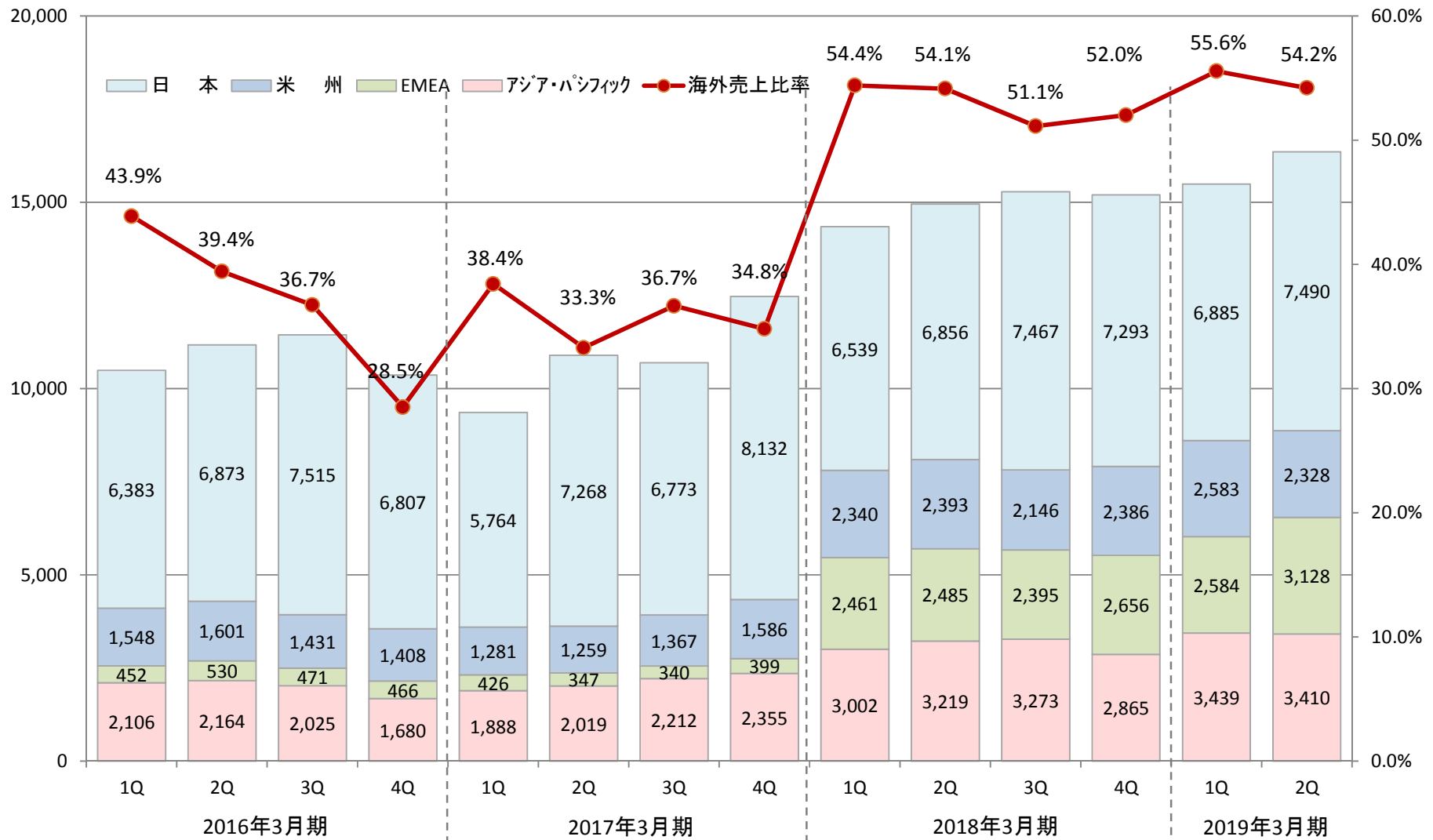
売上高・営業利益率 四半期推移

(単位：百万円)



地域別売上高 四半期推移

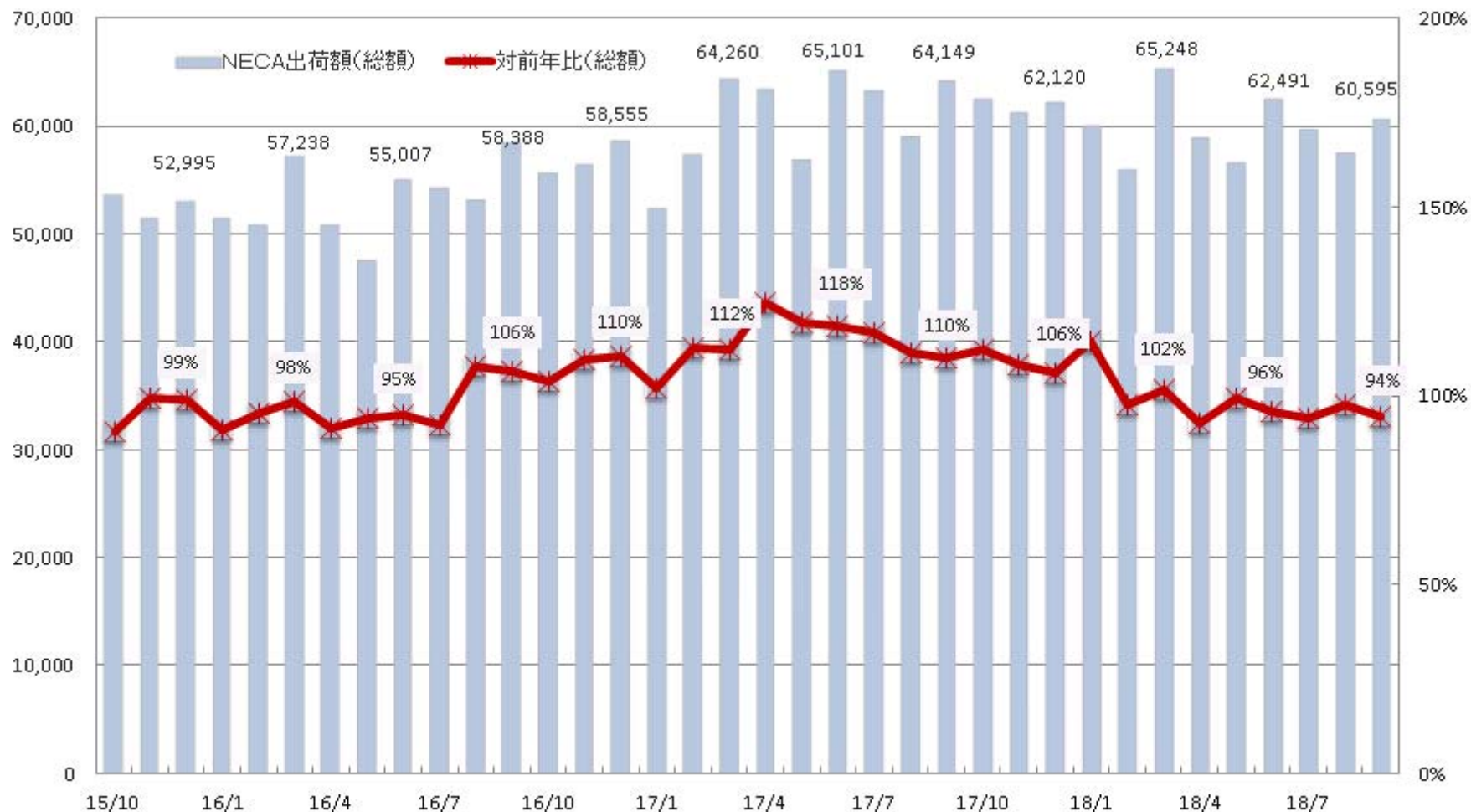
(単位：百万円)



15年10月～18年9月の業界出荷額推移と対前年比の状況

(単位：百万円)

※2018年9月は速報値ベース



製品別売上状況

製品群

HMI	盤内機器	オートメーション	安全・防爆	システム	その他
<ul style="list-style-type: none"> 制御用操作スイッチ ジョイスティック 表示灯  <p>APEM製品</p> 	<ul style="list-style-type: none"> スイッチング電源 端子台 制御用リレー/ソケット サーキットプロテクタ 産業用LED照明 	<ul style="list-style-type: none"> プログラマブルコントローラ プログラマブル表示器 光電スイッチ 自動認識機器 	<ul style="list-style-type: none"> 安全関連機器 防爆関連機器 	<ul style="list-style-type: none"> 表示器複合システム セキュリティシステム その他各種システム 	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギー事業 次世代農業ソリューション 協働ロボットシステム ウルトラファインバブル発生装置 

この資料には一部当社の計画や業績予想が含まれていますが、それらの計画や予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が計画、予想したものです。従いまして、実際の業績などは、今後さまざまな要因によって計画、予想数値と異なる結果となる可能性があります。

IDEC株式会社

経営戦略企画部

TEL : 06-6398-2505

FAX : 06-7662-7551

E-mail : y.ogawa@jp.idec.com

